

1 議 事 日 程

〔令和6年太宰府市議会 決算特別委員会〕

令和6年8月27日

午前 10 時 45 分

於 全員協議会室

日程第1 認定第1号 令和5年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について

2 出席委員は次のとおりである（17名）

委員長	陶 山 良 尚 議員	副委員長	神 武 綾 議員
委員	タコスキッド 議員	委員	馬 場 礼 子 議員
〃	今 泉 義 文 議員	〃	森 田 正 嗣 議員
〃	入 江 寿 議員	〃	木 村 彰 人 議員
〃	徳 永 洋 介 議員	〃	船 越 隆 之 議員
〃	堺 剛 議員	〃	笠 利 毅 議員
〃	原 田 久美子 議員	〃	小 畠 真由美 議員
〃	長谷川 公 成 議員	〃	橋 本 健 議員
〃	門 田 直 樹 議員		

3 欠席委員は次のとおりである

な し

4 太宰府市議会委員会条例第18条により説明のため出席した者の職氏名（14名）

総務部長 (歳出入一体改革担当)	轟 貴 之	総務部理事 (総務広報担当)	宮 崎 征 二
総務部理事 (危機管理・新しい公共担当)	杉 山 知 大	市民生活部長	佐 藤 政 吾
健康福祉部長 (子どもまんなか担当)	川 谷 豊	健康福祉部理事 (高齢者福祉担当)	大 谷 賢 治
観光経済部長 (市民と交流人口・観光人口相互促進担当)	友 添 浩 一	都市整備部長	柴 田 義 則
都市整備部理事 (公営企業担当)	高 原 寿 子	教育部長	中 山 和 彦
教育部理事	八 尋 純 次	総務課長併 選挙管理委員会事務局長	鳥 飼 太
経営企画課長	宮 原 竜	監査委員事務局長	添 田 邦 彦

5 職務のため議事室に出席した事務局職員の職氏名（3名）

議会事務局長	野 寄 正 博	議事課長	花 田 敏 浩
書記	三 舛 貴 市		

開会 午前10時45分

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長（陶山良尚委員） ただいまから決算特別委員会を開会いたします。

審査に入る前に、長谷川委員より発言を求める旨の申出がっておりますので、許可いたしております。

長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） 委員長、ありがとうございます。

令和5年度事務報告書を皆さんお持ちでしょうか。その77ページなんですけれども、ここは一般質問の場じゃないので、ちょっと確認をさせていただきたいと思います。

12節14節執行一覧表というのがあります。米印で「金額が1,000万円以上のものを掲載しています。」というふうにあるんですけれども、この「1,000万円以上ものを掲載しています。」、過去になかったんですね。この令和5年度の事務報告書からになっています。こういうふうに1,000万円以上のものを掲載する以前に、例えば議会に何の報告もない。なぜなかったのが1点と、それと何でその1,000万円以上になったのか、その説明をまず求めたいと思います。

以上です。

○委員長（陶山良尚委員） 総務部長。

○総務部長（歳出入一体改革担当）（轟 貴之） まずは、事前に皆様方にご説明ができず、申し訳ございませんでした。誠に申し訳ございませんでした。

まず、こちらにつきましては、以前から12節、14節で執行したもの、こちらにつきましてはどこまで掲載する必要があるのかという議論がございまして、今般、近隣市の状況を調べたところでございます。近隣市におきましては、全て掲載している自治体が少ない状況でまずございました。また、事務報告書が、地方自治法第233条第5項の規定による主要な施策の成果を説明する書類として位置づけているために、主要な施策という観点から、今回1,000万円以上のものを掲載することとした次第でございます。

以上でございます。

○委員長（陶山良尚委員） 長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） ここは質問の場じゃないので、質疑はこのくらいにします。けれども、事前に僕は報告がなかった、とまどいはあります。お気をつけください。ありがとうございました。

○委員長（陶山良尚委員） それでは、本日の決算特別委員会は、認定第1号について執行部から概要説明を受けたいと思います。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 認定第1号 令和5年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について

○委員長（陶山良尚委員） それでは、日程第1、認定第1号「令和5年度太宰府市一般会計歳入

歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（歳出入一体改革担当）（轟 貴之） それでは、認定第1号「令和5年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について」、その概要をご説明申し上げます。

資料といたしましては、事務報告書の決算の概要に沿って説明をさせていただきます。

なお、説明の都合上、決算額は1,000円単位とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、1ページの会計別決算状況をご覧ください。

令和5年度の一般会計の決算額は、歳入総額336億2,979万8,000円、歳出総額316億7,172万2,000円となっております。参考に、これを前年度と比較いたしますと、歳入では18億7,609万9,000円、5.9%、歳出では21億8,693万円、7.4%の増額となりました。

次に、2ページをご覧ください。

こちらに普通会計決算の概略を載せておりますが、これからの説明につきましては、一般会計と住宅新築資金等貸付事業特別会計を合わせた普通会計の数値になりますので、あらかじめご了承ください。

歳入歳出差引き額は19億5,862万2,000円の黒字となり、ここから繰越明許費等による翌年度へ繰り越すべき財源3億1,777万1,000円を差し引きますと、実質収支額として16億4,085万1,000円と黒字決算となっております。

令和5年度は、長く続いた新型コロナウイルス感染症の影響が収まりきらないところに物価高騰の波が押し寄せてきた中で、市民や事業者の皆様への支援を行いながらも、まち・ひと・しごと創生総合戦略、まちづくりビジョンに基づく各種施策に全力かつ着実に取り組んでまいりました。また、事業の遂行に当たっては、費用対効果を意識して歳出削減に努めるとともに、ふるさと納税の拡充などによる歳入増加に努めてまいりました。

それでは、3ページ以降に記載しております決算の内訳をご説明いたします。

まず、3ページの歳入からご説明いたします。

歳入全体の決算額は336億3,184万9,000円で、前年度より18億7,405万7,000円の増額となりました。市税は88億円を超え、ふるさと納税についても、返礼品やサイトの拡充などの取組強化により18億円を超え、ともに過去最高となりました。そのほかでは、決算剰余金が減少したことで繰越金は減少している一方で、水城小学校の整備などに伴い国庫支出金や地方債についても増となったほか、繰入金も増加しております。

次に、市税についてご説明いたします。

4ページをご覧ください。

市税の決算額は88億5,608万3,000円で、前年度と比較いたしますと2億6,207万9,000円、3%の増額となりました。新築家屋の増などにより固定資産税及び都市計画税が増加したほ

か、個人市民税やたばこ税なども増額となっております。

5ページをご覧ください。

こちらには一般財源の状況を掲載しております。

一般財源全体といたしましては214億6,635万2,000円で、前年度から9億3,461万6,000円、4.6%の増額となりました。先ほどご説明しましたように、市税が2億6,207万9,000円、3%増、寄附金についても、ふるさと納税の返礼品やサイトの拡充といった取組強化などにより5億7,813万9,000円、46.9%の増額により過去最高となりました。

なお、6ページには、歳入を自主財源と依存財源とに分けて掲載いたしております。

自主財源につきましては、市税、寄附金などが増額となったことから、前年度に比べ9億4,356万1,000円、6.8%の増額となりました。依存財源につきましても、地方交付税や国、県の支出金、市債の増などにより、前年度に比べ9億3,049万6,000円、5.2%の増額となりました。これらの結果、歳入合計に占める自主財源の割合が0.3ポイント上昇し、44.3%となりました。

以上で歳入の説明を終わらせていただきます。

次に、歳出の状況をご説明いたします。

7ページをご覧ください。

歳出全体の決算額は316億7,322万7,000円で、前年度比21億8,584万5,000円、7.4%の増額となりました。

内訳を目的別に見ますと、社会保障費の伸びや物価等の高騰対策などにより民生費が8億4,396万4,000円、水城小学校の整備などにより教育費が12億6,277万6,000円の増額となりました。一方で、衛生費が新型コロナウイルスワクチンに係る会場運営委託料などがなくなったことで1億5,187万9,000円の減額となりました。

次に、8ページには歳出を性質別に分けて掲載いたしております。

義務的経費では、扶助費において社会保障費の伸びや物価等の高騰対策などにより増額となり、全体として10億769万5,000円の増額となりました。投資的経費では、水城小学校の整備や市内幹線道路の改良事業などの投資を行い、全体として14億7,120万5,000円の増額となりました。その他の経費では、ふるさと納税に係る物件費が増加したものの、精算返還金の減などにより補助費等が減少したことで、全体としては2億9,305万5,000円の減額となりました。

以上で歳出の説明を終わらせていただきます。

次に、本市の財政状況についてご説明をいたします。

10ページをお願いいたします。

10ページに経常収支比率の推移を載せております。

経常収支比率は、財政構造の弾力性を示す指標の一つでございますが、令和5年度は94.5%で、前年度から1.9ポイント上がりました。主な要因といたしましては、市税や交付税など経常的な収入が増加しているものの、物価高騰などにより、物件費、扶助費の経常的な経費も増

額となったことが影響しました。

次に、11ページに健全化判断比率を載せております。

健全化判断比率は、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標から成ります。本市の令和5年度健全化判断比率は、一般会計等の実質収支が黒字であるため、実質赤字比率の表示はなく、また公営事業会計も含めた実質収支の合計でも黒字であるため、連結実質赤字比率の表示もございません。一部事務組合まで含めた実質公債費比率につきましては2.7%となっており、昨年より0.3ポイント減少しております。地方公社や第三セクターなどまで含めた将来負担比率では、市債残高などの将来負担額から充当可能財源を引きますとマイナスになりますので、負担比率の表示はございません。したがって、11ページの表からもお分かりのとおり、太宰府市の財政状況は全て早期健全化基準及び財政再生基準以下であるため、健全化法に基づく財政健全化計画及び財政再生計画の策定は不要でございます。

12ページ及び13ページをお願いいたします。

市債残高と基金残高の推移をグラフで載せております。

水城小学校の整備をはじめとする普通建設事業等に市債を活用し、令和5年度中に16億4,910万1,000円の市債発行を行いました。償還額が発行額を上回ったため、市債残高は前年度より7億8,025万7,000円減少し、187億3,005万円となっております。

市債残高を分析いたしますと、このうちの約70%は後年度に普通交付税として交付される額であり、また約12%が史跡地公有化の償還補給金などとして補助金で購われます。よって、起債残高のうち、実質的に市が負担する額は約18%ということになります。

基金につきましては、各公共施設の改修事業や増加する社会保障費の財源として活用した一方で、将来や災害等への備えとして積極的に積立てを行い、基金残高の増加に努めました。この結果、令和5年度末の基金総額は、5億1,341万9,000円増加し、過去最高だった前年度をさらに上回り、70億5,452万3,000円となりました。

以上、簡単ではございますが、一般会計及び普通会計の歳入歳出決算についての概要を説明いたしました。

詳細につきましては、配付させていただいております決算書並びに事務報告書、監査意見書等をご参照いただければと思います。

よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（陶山良尚委員） 説明は終わりました。

質疑は9月12日の決算特別委員会で行います。

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長（陶山良尚委員） 本日はこれもちまして散会します。

散会 午前11時00分

~~~~~ ○ ~~~~~